

## 成功例見えづらく「博士離れ」

参院議員

有村治子氏 53



### 魅力PRや環境整備必要

日本の「博士離れ」が深刻だ。将来のキャリアへの不安から、博士課程の入学者は減少傾向が続く。博士不足は科学技術分野での国際競争力の低下にもつながりかねない。文部科学政務官や初代の女性活躍相などを務め、博士人材の待遇改善や活用を訴えてきた有村治子参院議員(53)に聞いた。



「20年前、日本の人口100万人当たりの博士号取得者数は約130人で、米

国や韓国などとはほぼ同じ水準だった。しかし、これら

の国では博士号の取得者数が右肩上がりに伸びていると

言われる。現状をどう捉えているか。

「博士とは、社会課題について仮説を立てて研究・検証し、その過程で新たな知を生み出し、それを第三者に論理的に伝えるという、極めて高度な知識と能力を持った人材だ。研究者としてだけでなく、行政や産業界、メディア、国際機関など幅広いフィールドで活躍できる素養や見識も併せ持っている。」

「20年前、日本の人口100万人当たりの博士号取得者数は約130人で、米

国や韓国などとはほぼ同じ水準だった。しかし、これら

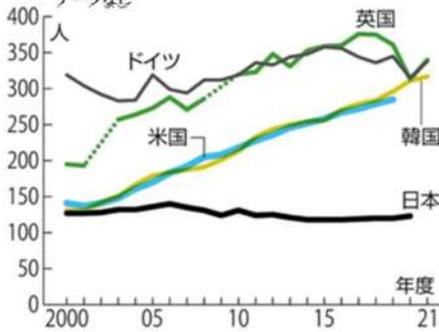
の国では博士号の取得者数が右肩上がりに伸びていると

言われる。現状をどう捉えているか。

「博士とは、社会課題について仮説を立てて研究・検証し、その過程で新たな知を生み出し、それを第三者に論理的に伝えるという、極めて高度な知識と能力を持った人材だ。研究者としてだけでなく、行政や産業界、メディア、国際機関など幅広いフィールドで活躍できる素養や見識も併せ持っている。」

人口100万人当たりの博士号取得者数

※文部科学省科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2023」を基に作成。英国は2002年度と09年度のデータなし



ありむら・はるこ 国際基督教大卒、米スクール・フォア・インターナショナル・トレーニング大学院修士課程修了。文部科学政務官、女性活躍・行政改革相などを歴任。自民党科学技術・イノベーション戦略調査会会長代理。

「社会的に成功した事例が見えづらいたのが一因だ。博士という、大学教授や研究者になるとか思い込みが強い。不安定な身分で研究するポストドク(博士研究員)のイメージもある。一方、海外では学術界はもちろん、国際機関や産業界、公務員など、幅広い分野でその能力を生かし、活躍している。日本では、こうした人材の活用が進まず、将来への不安から博士課程へ進む学生が減っている」

「博士とは、社会課題について仮説を立てて研究・検証し、その過程で新たな知を生み出し、それを第三者に論理的に伝えるという、極めて高度な知識と能力を持った人材だ。研究者としてだけでなく、行政や産業界、メディア、国際機関など幅広いフィールドで活躍できる素養や見識も併せ持っている。」

「博士とは、社会課題について仮説を立てて研究・検証し、その過程で新たな知を生み出し、それを第三者に論理的に伝えるという、極めて高度な知識と能力を持った人材だ。研究者としてだけでなく、行政や産業界、メディア、国際機関など幅広いフィールドで活躍できる素養や見識も併せ持っている。」